

■ヒット

ヒットとはボールを打ったり、押し出したりすること。ボールをヒットする時は、腰から上であれば、どこを使っても構わない。

⚠ 安全面注意 小学生以下及び練習を積んでいない人の場合、ヒットは必ず両手で行うこと。

⚠ 安全面注意 ヒット時、ボールを支えるプレーヤーはできるだけ頭を下げること。頭を上げていると、ヒットされたボールが頭に当たる可能性があり危険です。



ヒット時の主な反則

反則名	解説
コンタクトミス	ヒットの瞬間、ヒットチームのプレーヤー4人全員がボールに触っていなかった場合。
コールミス	正しくコールしなかった場合。「コールミス」の一例 1)レフリーにも聞こえない小さなコールの場合。 2)2人以上のプレーヤーが同時にコールした場合。 3)自分のチームカラーや使用していないチームカラーをコールした場合。 4)ヒッターの手がボールに触れる前にコールを言い終ってない場合 (コールしながらのヒットの場合)。 ⚠ レシーブチームの混乱を招くため、コールと同時のヒットは反則です。
ショートヒット(短いヒット)	ヒットしたボールが1.8m以上飛ばなかった場合。
ダウンワードヒット (下向きのヒット)	ヒットしたボールがボールの軌道の最初の1メートルの地点でボールがヒット位置より上、または同じ高さになかった場合。
アウトサイド(アウトボール)	ヒットしたボールが直接コート外に落ちた場合。
トウワイズ(連続ヒット)	1人のプレーヤーが続けて2回ヒットした場合。

◆補足 「不当な攻撃(通称:トップコール)」について

ヒット時の反則の一つです。これはスポーツマンシップの精神をもとに狙わなければならない上位チームを攻撃せず、下位チームを攻撃した場合に適用されます。下位チームを攻撃した場合、即座にコールミスの反則がとられます。

■レシーブ

身体のどの部分を使ってボールをレシーブしても構わない。レシーブ後はボールを持って移動しても、パスしてもよい。

⚠ 安全面注意 バレーボールのオーバーハンドパスのように指先でボールを受けてはいけません。必ず手のひら全体でボールを受けます。

レシーブ時の主な反則

反則名	解説
レシーブミス	ボールが床につく前にレシーブできなかった場合。
アウトサイド (アウトボール)	1)レシーブしたボールがコート外に落ちた場合。 2)レシーブ時、両足がコート外にある場合。
イリガルディフェンス (不正なディフェンス)	レシーブチームはボールから1.8mの範囲内に1名のみプレーヤーをおくことができる。 レフリーがヒットの瞬間に2人以上のプレーヤーがいたと判断した場合。
タイムオーバー (時間ルール違反)	1)10秒ルール違反…1番目のプレーヤーがレシーブしてから10秒以内にヒットしなかった場合。 2)5秒ルール違反…プレー開始時や再開の際にレフリーのホイッスル後5秒以内にヒットしなかった場合。
ウォーキング	3番目のプレーヤーがボールに触れたら、その時にボールに触れているプレーヤーとその後にボールに触れたプレーヤーはピボット※しか認められず、このことに違反した場合。 ※ピボットとはピボット(軸足)を固定し、その反対の足のみ動かす動作。原則はバスケットボールのピボットと同じ。



◆補足 「レシーブチームのポジション」について

ヒットチーム以外のレシーブの2チームは常にボールを中心として四角形をつくるように守備位置につくと効果的です。

■備考

- キンボールスポーツはいかなる身体的な接触をも禁じています。プレーヤーは全員、接触しないよう最善を尽くさねばなりません。
- キンボールスポーツのルールは状況、レベルに応じて、変更することが認められています。